

Ⅲ. 主題への取り組み

1 主題設定の趣旨

(1) 「表現する力を育てる実践」を基礎として

本校開設から昨年度まで4年間にわたり、子供達に自己を表現する力を身につけさせることを目指して、「表現化に視点をあてた教育課程の編成とその展開」を主題に研究に取り組み、実践を重ねてきた。このことは、自己の表出に重点をおいたものであったといえる。

今、子供達は、明るく活動的で、たくましくなってきた。それは、社会自立のための重要な力であると本校で考えている「表現する力」が身につけてきたことを示すものであり、過去4年間の実践の現れであろう。従って、表現化に視点をあてた開設以来の研究実践は、今後とも本校の取り組みの基礎となっていくものと考えられる。

(2) 主題の設定

このような、「表現化」に視点をあてた従来の取り組みを継承する一方、私達は新たに、表現されるべき心的内容の充実を目指した取り組みを加えることにした。もち論、表現化においてこの点が忘れられていたわけではないが、今回はその点にあらためて注意を向け、両者に均しく力点をおいて実践を進めることにしたものである。こうして生まれたのが、今回の主題「豊かな心を持ち、たくましく行動する子」である。これにより、内面と表出とが調和しな^がか^くより高い水準に発達していく姿を思い描いたのである。ただ、このようなとらえ方では、障害のない一般の子供達を対象にした場合と同じであり、本校に特にふさわしい主題とはいえない、という見方が出てくるかも知れない。もとより、障害のある者も、ない者も、教育の究極的な目標は共通であるから、一般の子供達にあてはまる主題を本校がかかげたとしてもおかしくはない。しかしながら、この主題において私達の考えているのは、以下に述べるように、障害児の教育に必要な具体的内容をもったものである。その内容は、未だ不完全なもので、周囲からの批判により、また私達自身の今後の実践の中で、修正されるべきものではあるが、現段階で考えている内容のごく概略をここに記録しておく。

2 主題に対する基本的な考え方

(1) (心と行動と(心的内容とその表出との関係について)

「豊かな心」と「たくましい行動」という時、この二つは、いうまでもなく密接な相互作用をもっている。このうちのどれが先かという議論はおくとして、外に向ってなされた行動はfeedbackされて心的内容をより豊かな（鋭い・細かな）ものにし、こうして豊かになった内面はいつそう高次の行動を可能にする。このような相互作用がくり返えされて子供達は発達していく。また、表情や身ぶりやことばのような、観察し得る外的な行動は内面をよく反映して、その間に明確な境界を設けることもむずかしく、ここでも両者の密接な関係をみることができる。ただ両者が強く結びついているからといっても、教育場面においては、一方だけを強化してあとは他方が結果的に向上するのをまつ、といった方法をとるわけにはいかない。そういうわけで、新しい研究主題のもとで、両者に働きかける教育を目指すことにしたのである。

(2) 「豊かな心」について

「豊かな心」という表現は、研究主題としてはあまりに抽象的、ムード的なものを感じられるかも知れないが、実は私達は、このような表現の中に、おおよそ次のような内容を包含させ、これらを向上させていくことを考えているのである。

- 知的内容・・・・・・認知能力、言語の理解力、^{思考}
- 情緒的、意志的内容・・・・・・感情の^{鋭さ}と安定、意志
- 道徳的、社会的内容・・・・・・善悪の判断、協力的態度

こうしてあげてみると、いかにも列的にみえるが、これらは相互に深いつながりがあり、決して個々ばらばらに働くものではない。またこれらは一般の子供達にもあてはまる内容であろうが、精神遅滞児の教育においては特に必要なものであり、さらにその指導法となると、具体的な方法が工夫されねばならない。

(3) 「たくましい行動」について

「たくましい行動」については、その内容も比較的想像しやすく、その内容をあまり立ち入って説明する必要もないであろう。すなわち、気力、体力ともに力強く積極的に課題に取り組むことを求めているものである。その表現は動作的な分野だけでなく、言語的にも、また集団的な場面にも及ぶものである。ただここでつけ加えておきたいのは、「たくましい行動」というものがしばしば外に向って表出される、目に見える積極的な行動だけと受け取られやすいのに対して、私達は「抑制的行動」をも考えているということである。すなわち、場面に応じて「しない」「言わない」「止める」こともできる子供を育てるのが私達の目標であり、これにより、「表出」と「抑制」とのバランスのとれた「たくましい行動」が得られるわけである。